地域資源と東近江三方よし基金

2019.3.7公益財団法人東近江三方よし基金

＜第2次東近江市環境基本計画＞

課題　＜東近江市が直面する課題＞

環境
- ○ 資源の大量消費
- ○ 暮らしの安全基盤の確保
- ○ CO_2排出量の増加
- ○ 多様な自然環境の維持
- ○ 生物多様性の衰退
- ○ 歴史・文化資源の継承と活用

経済
- ○ 地域産業による地域資源の活用
- ○ 地域産業の後継者不足
- ○ 市外消費、化石燃料等の購入による資金流出
- ○ 農林水産業の後継者不足と農地等の管理

社会
- ○ 人口減少、超高齢化、少人数世帯化
- ○ 集落活動の維持、人と人とのつながりの希薄化

環境基本条例の理念（低炭素・資源循環 自然共生、歴史文化、生活環境、協働）に沿った統合的アプローチ

目指す将来像

東近江市が持つ豊かな自然と市民の営みが有機的につながり、
市民が豊かさを感じる循環共生型社会

基本方針　「暮らし」、「社会の仕組み」の変革 を主軸として、市民・事業者・市の協働のまちづくり により3つの基本方針を展開

1 地域資源の活用
～地域資源の活用による豊かな地域づくり～
- 1-1 自然の恵みを生かした低炭素な暮らしの実現
- 1-2 森里川湖を育てる持続可能な農林水産業の振興
- 1-3 心豊かな環境を創造するエコケアライフへの転換

2 地域資源の見直し、保全・再生
～地域資源の見直し、保全・再生による地域の価値を高める地域づくり～
- 2-1 グランドデザインに沿った森里川湖の保全・再生
- 2-2 生物多様性の保全
- 2-3 森里川湖のつながりの再生
- 2-4 健康で安心して暮らせる生活環境保全
- 2-5 環境に配慮した社会インフラの更新

3 地域資源をつなぐ仕組みづくり
～地域をつなぐ仕組みづくりによる循環共生型の地域づくり～
- 3-1 循環共生型まちづくりを促進する仕組みづくり
- 3-2 循環共生型の地域づくり
- 3-3 次世代育成

事業連携から全庁横断的な政策連携の取組

＜地域資源とは＞

私たちの地域は、「自然資本」「人工資本」「人的資本」「社会関係資本」の4つの要素と、これらの中で育まれた「文化資本」で構成されています。これらを総じて「地域資源」と呼びます。

＜東近江三方よし基金とは＞

地域活性化及び循環共生型社会の実現を目指して、地域資源をお金でつなぐ仕組みの一つとして市民772名からの寄附で2017年に設立された公益財団法人。

資金調達

【行政から】
- 目的別補助金の運営委託

【市民から】
- 事業指定寄附
- 募金
- 遺贈（遺言による財産寄附）
- 投資信託

【事業者から】
- 寄附
  ※金融機関の寄附型預金等
- 融資、出資

【その他団体から】
- 休眠預金

公益財団法人 東近江三方よし基金

Point　社会的収益の見える化（経済価値、社会的価値）

Point　社会的認証（信用）

非資金的支援（中間支援組織と連携）
- 団体の育成指導
- コミュニティビジネス支援
- ラウンドテーブル
- コミュニティシンクタンク

活用例
- ●助成
  公益活動への補助金
  事業指定寄附制度
  冠基金による助成制度
- ●助成＋融資
  金融機関との協調融資
- ●融資
  コミュニティ融資
- ●東近江版SIB
  （ソーシャルインパクトボンド）
  行政補助金等を成果型へ移行
- ●地域通貨
  ＝人と人をつなぐ交換ツール
  電子マネーの活用等

循環共生型社会を実現するESG地域金融～東近江三方よし基金の事例から～

Environment＆Social（人と自然、人と人のつながりの継承）

東近江三方よし基金では、環境（CO2、生物多様性）、経済（地域経済貢献度）、社会（人と自然・人と人のつながり時間）の視点で、分野を超えてつながるプロジェクトを支援

寄附

「食と農」を支えるプロジェクト

市民の寄付を、地元野菜の地域内流通を支える株式会社へ出資し、その配当で公益事業を支える仕組み

東近江市版SIB

MURASAKI no ORGANIC

万葉の時代から滋賀県東近江地域にある「紫草（ムラサキ）」を使ったオーガニックのスキンケアコスメ「MURASAKI no ORGANIC」を商品化。耕作放棄地の解消と山間部の雇用創出を目指す。

東近江市版SIB

政所茶生産振興

室町時代から続く有機栽培・手摘みの政所茶の継承を実現するため、付加価値の高い販路開拓、山村の丁寧な暮らし体験ツアー等を実施する。

社会的投資

市民共同発電所

市民出資で太陽光発電を設置し、その売電益は地域商品券で還元し、地域でお金を回す仕組みにつなげる。その一部を公益活動への寄附にあてる団体もある。

東近江市版SIB

がもう夢工房

空き店舗を改修して、地域の拠り所としてコガモカフェをオープン。着地型観光や人材バンク、子ども食堂など、地域の拠点として活用。定期的にマルシェを開催し、地元野菜や果物を販売。

東近江市における社会的投資推進に関する協定締結（2018.11.16）

湖東信用金庫
（地域金融機関）
・地域の社会的投資商品の紹介
・東近江三方よし基金の理念に貢献する起業・創業提携融資を検討

公益財団法人
東近江三方よし基金
（基本財産は772名の志民寄附）
H29.6.12設立→H30.7.2公益認定
東近江市版SIB事業
（地域の社会的投資による成果連動補助金）
自然環境を生かした新・近江商人応援事業
（寄附を活用した起業・創業支援助成） etc

プラスソーシャルインベストメント株式会社
（第二種金融商品取引業者）
・社会的投資の案件組成
・社会的投資のためのプラットフォーム設置・運営

東近江市
・事業者募集及び交付金支払

東近江市版SIB

薪プロジェクト

獣害を防止するため雑木林を伐採し更新するため、雑木を薪として販売し、エネルギーとして利用する仕組み。薪割作業を地域の働きづらさを抱える若者らの中間的就労の場となる。

社会的事業への資金調達支援に関する協働協定書（2017.6.20）

Local Governance（共に考え、共に創る　地域自治の継承）

東近江三方よし基金では、市と連携して多様化する地域の課題を発見・共有し、共通価値を創出する自治のあり方を継承

新たな課題

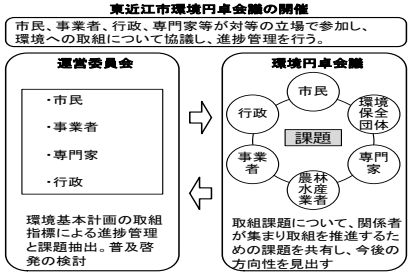
コレクティブインパクト事業
「イヌワシの棲む森づくり」

市域の56%を占める森林は、イヌワシが生息し、多様性豊かな生態系が維持されていた。しかし、材価の低迷や所有者の高齢化など、豊かな森はその姿を変えている。森林・林業・木材に関する多くの利害関係者と研究者、行政が集い、その課題の明確化と具体的な対応策について議論し実践につなげるプロジェクト。

プラットフォーム

東近江市環境円卓会議

環境・経済・社会の視点で、分野を超えてつながるプロジェクトを普及すると共に、環境基本計画の進捗管理も担う。新たな地域課題を深め共有する場を設定する環境円卓会議を運営する。



人材育成

地域ブランディングの本質

東近江市で暮らし続ける地域ブランディングを実現するため、市民が主体的にまちに関わろうという前向きな気持ちを育む人材育成について行政、市民、企業、教育機関等が議論し具体策を検討する。

東近江市版SIB

地球ハートヴィレッジ

空家を活用した地域の拠点で、子育て世代がA&Hカフェを運営し、地域住民が講師となって講座を開催したり、性別や世代に関係なく地域の居場所を提供している。

東近江市版SIB

ぐるりの家

空家を活用し、産前産後の母親を支える活動を実施する。マイ助産師制度を普及するための勉強会や、母親の社会参加をサポートするなど、経験を生かしたビジネスの展開を模索している。